



掛合中だより

6月号
2010年6月23日

校長室から

今年は6月に入っても晴天が続き梅雨入りが例年に比べ遅くなりましたが、ここに来てアジサイが喜ぶ空模様が続くようになってきました。

まだ新学期が始まって僅か2ヶ月ほどというのに生徒、特に3年生にとっては大きな節目となる雲南市・飯南町総合体育大会が、6月8日から10日にかけて市内各地で行われました。部活動についてはこれまでも実態として学校教育における重要性は誰もが認めていたところですが、学校教育におけるバイブルとでもいうべき学習指導要領では余り触れられてきませんでした。しかし平成20年3月公示された新学習指導要領においては「生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環として、教育課程との関連が図られるよう留意すること。」として明確に示されました。そしてここでの「・・・責任感、連帯感の涵養等に資するものであり・・・」とある件は正にその通りと確信させることができました。

その1つ目は6月9日スクールバスから降りたバレー部のキャプテンに私が「試合どうだった。思い切りやれた？」と問うと、この生徒はハンカチを取り出し、目頭を押さえて一言も発することができなかつたことです。バレー部は8日の試合で残念ながら思い描いていたような結果を残すことは叶いませんでしたので、その直後涙にくれたことは想像に難くありません。しかし、翌日もまだ気持ちの高ぶりを抑えられなかつたその姿を見て、キャプテンとしての重圧そして責任感というものを感じないわけにはいきませんでした。率先して声を出し、下級生や同級生をまとめていかなければならない重みを自覚し続けた日々は、結果の如何を問わず人間としての成長の糧となったことは疑う余地はありません。他の3年生にとっても新年度になって日ごとに力を付けてきていましたので、無念さは痛いほどよく分かりますが、今後の学校生活において新たな目標を見だし、更なる成長を期待したいと思います。

2つ目は野球部員の涙です。県大会への出場をかけた対加茂中学校戦の後、球場脇で円陣を組んでの反省会を行いました。それが終るや否やそれまで涙ぐんでいた3年生はもちろん2年生も揃って涙にくれてしまいました。中にはたまらず地面に顔を埋めて泣き崩れる生徒もいました。ここに私は3年生と一緒に野球がしたい、県大会へ出場したいという2年生の想いの強さを見せ付けられた思いがしました。そしてそれと同時に僅か5人でありながらそういう想いにさせた、キャプテンを中心とした3年生の平素からの真摯な取り組み、そして絆の強さを同時に強く感じた次第です。残念ながら2年連続の県大会出場は叶いませんでしたが、今の気持ちを忘れず今後精進すれば必ずや来年は3年生の想いを携えながらの出場が期待できると思っています。

涙2題でこの頃の空模様同様多少湿っぽくなってしまいましたが、掛中の部活動は少しも停滞することなく歩を進めています。「今年は去年取れなかつた団体での優勝を目指します」と壮行式で話した柔道部は、その言葉通り男子団体が優勝し、県大会での上位進出を目指し朝からの練習に励んでいますし、演奏順が決まった吹奏楽部も去年の銀賞から金賞へと飛躍するために、土日返上で頑張っています。さらに、常設ではないものの季節部として位置づけられている陸上部も益田市での県大会に向けて、短時間ながら密度の濃い練習を行っています。

保護者の皆様には当日は多数応援に駆けつけていただくとともに、これまでも物心両面に渡ってご支援を賜り大変ありがとうございました。今回1つの区切りを迎えましたが、今年度もまだ3分の2以上残されており、生徒1人1人の更なる成長のため学校としても引き続き尽力していかなければならないと考えておりますので、皆様の今後とも変わらぬ教育活動へのご理解、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。